

## 平成 26 年度後期 授業改善アンケートの概要

### [I]はじめに

授業改善を目的として、平成 26 年 12 月 10 日（水）～平成 27 年 1 月 10 日（土）の 2 週間にわたって、学生による「授業改善アンケート」をほぼ全科目で実施しました（\*1）。ご協力ありがとうございました。以下では、原則として回答番号の「5（肯定的評価）」から「1（否定的評価）」までを点数とみなして合計し、回答者数で除した「平均点」を項目別に表示しました（\*2）。

①プレゼンテーション技術	01. 教員の言葉は全体として明瞭で聞き取りやすかったですか
	02. 板書やスライドなどの文字は見やすかったですか
	03. プリント・スライド・VTR 等の教材は、授業の理解を深めるのに役に立ちましたか
②授業の運営方法	04. 講義は講義細目の通りでしたか
	05. 教員は、私語について注意するなど受講環境の適切な確保をしましたか
	06. あなた自身にとって、各回の授業の量はどうか感じられましたか
	07. あなた自身にとって、この授業のレベルはどうか感じられましたか
	08. 教員の熱意は伝わりましたか
③受講態度の評価	09. 授業方法は、あなたの理解度や到達度に留意し工夫されていましたか
	12. あなたは予習・復習など、授業時間以外での学習をしましたか
④受講結果の評価	10. あなたは授業内容に触発されて、参考書を読むなどの学習意欲をかきたてられましたか
	11. あなたは授業内容をどの程度理解できたと思いますか +SQ 理由を問う副問
	13. 総合的に見て、この授業にどの程度満足しましたか +SQ 理由を問う副問

\*1：匿名性の確保が困難な「履修登録者数が 5 名未満の科目」、結果の意味が曖昧な「複数教員の担当科目」は、原則として実施対象から除外しました。

\*2：問 04・問 06・問 07 は、回答番号が単純に肯定・否定を意味しないため、平均値としての表示はしていません。

### [II]検討結果

集計結果と自由記述は担当教員に配布されています。そのうえで、学科などで議論した結果、次のような対応策（アクションプラン）と学生への要望が示されました。大学の授業は、教員と学生がともに新しい知識を求める熱意と努力を共有することで成り立ちます。教員も授業改善に努めますので、皆さんも提言を受け止めて、大学生として求められる受講態度を自らつくるように努めてください。

#### ●総合教育センター

##### 【センターの対応】

学生からの評価は多くの項目でおおむね「4」であり、現在の授業内容や学習活動に対して一定の満足感が得られていることが分析できます。今後もこの状態を維持するべく、わかりやすい授業、学生のための授業になるよう工夫を継続します。

「12 授業以外の学習」の項目のみおおむね「3」の評価ですが、これを「学生の努力不足」と考えるのはあまりに安易であり、危険ではないかと考えます。専門科目の学習に手一杯となり、総合教育センター開講の科目に対して時間を振り向けることができない学生も見受けられます。安易に授業外の課題を課すのではなく、学生の負担に配慮し、授業時間内に課題の時間を設けるなどの工夫をします。

##### 【学生への要望】

授業改善アンケートは学生自身が授業への取り組みを振り返るものでもあります。自分自身の学び方を考える機会にして下さい。

#### ●生命環境学部

##### 生命科学科

##### 【学科の対応】

授業以外の学習について、非常にわずかではあるが「3 少しした」以上の評価が増加しつつあります。これは、各教員の授業時間外での学習を促進する施策が徐々に効果を上げている可能性を示しています。2015 年度に向けて、さらに各教員が学生の自主学習を促進するための工夫を積み上げていきます。

### 【学生への要望】

- ・教員からの課題を行うなど、授業外の学習が徐々に行われるようになってきているが、できる限り自主的な学習への取り組みも行って下さい。予習・復習を重視してほしいと考えています。
- ・わからなかった場合は必ず質問に来て下さい（講義終了後直接でも講義の空き時間に教員オフィスに出向いてでも、どちらでも良いので）。

## 自然環境学科

### 【学科等での対策】

アンケート結果を前の期と比較・検討し、大きく改善した点がある教員から、改善につながったであろう工夫を紹介してもらいます。この情報交換により、学生の習熟度や満足感が増す授業となるよう改善を進めていきます。

### 【学生への要望】

本学科の特色は実習や実験を通して実践的な知識と技術を培うことにありますが、これをより効果的なものとするためには、講義による広範な基礎知識の習得が不可欠です。まず、講義には欠かさず出席し、自宅学習にも怠りなく取り組んで下さい。その上でさらに疑問や理解の難しい点があれば、積極的に教員に質問をしてください。

## アニマルサイエンス学科(上野原キャンパス)

### 【学科の対応】

- ・前回調査と比較してほとんど変化は無く、概ね良好な水準であると考えられる。学科全体をまとめた資料は変化が捉えにくいいため、講義毎のアンケートについて各教員が精査し、改善に務めます。
- ・学年ごとの学習意欲、学力等の傾向について教員間で情報共有し、講義計画に反映させます。

### 【学生への要望】

「授業以外での学習」の項目は前回同様に低い値です。教員が紹介する参考資料を読むなど、日常的な学習に努めてください。また、教員が出すレポート課題等の作業も「授業以外での学習」に含まれます。予習、復習に加え、レポート作業、試験勉強等も「授業以外での学習」に含めてアンケートに回答して下さい。

## アニマルサイエンス学科(千住キャンパス)

### 【学科の対応】

- ・板書や資料の見やすさ、声の明瞭性、教員の熱意、授業方法の工夫等、教員の実際的な授業方法について、否定的な回答はほとんどなかったため、今後も現状以上のレベルを維持していきます。
- ・授業のレベルがやや高い、各回の授業量がやや多いとの回答が多く、授業の理解度は「少し」または「ある程度」理解との回答が多く「よく」理解が少なかったことから、毎回の授業内容を確実に理解してもらうための方法を工夫します。具体的には、予習・復習を促すための自己学習教材の提供、小テストの実施、クリッカーの利用等を増やします。
- ・勉強の仕方がわからない、学習方法の指導を求める意見が多かったため、特に資格試験受験対策の補習等を今後増やしていきます。

### 【学生への要望】

- ・授業以外の学習が少ないようですが、講義の予習と復習の方法についてはシラバスにも記載しています。資格試験受験準備のためにも覚えるべき内容が多いので、各科目の定期試験前だけではなく、普段から少しずつ学習を積み重ねるようにしてください。
- ・学習方法がわからない場合は、ためらわずに教員に相談してください。
- ・宿題やテストが無くとも、興味がある分野については、図書館を利用した自己学習や教員への質問を積極的に行ってください。

## ●医療科学部

### 理学療法学科

### 【学科の対応】

- ・理解不足や実技習得に対して、補講や授業時間外での教員在室による実習室の解放などを行っています。
- ・授業開始時に前回授業分の振り返りとして小テストを実施したり、レポート課題にて復習が行えるように工夫しています。
- ・小グループ制によるグループワークを中心とした授業や、多数教員によるオムニバス授業、同一時間内の多数教員配置など多面的に学生の指導、評価を実施しています。

### 【学生への要望】

- ・大学の図書館など施設、資料を用いて予習、復習などの自己学習を実施して下さい。
- ・授業に出席することは大前提です。

- ・課題レポートなどの提出物の期限を厳守し、必要な体裁を整えるという基本的なことを守ってください。
- ・空き時間などの実習室使用（授業で使用していない場合）を可能としているので、積極的に自己学習を行ってください。質問等は学科教員が随時受け付けています。
- ・到達目標を確認したうえで、興味がある分野には積極的に取り組んでほしいです。また、理解度の低い授業を放置せず、担当教員との関わりを積極的に構築する姿勢を作ってください。

## 作業療法学科

### 【学科の対応】

- ・必ずしも学生が好意的な授業が良い授業とは限りませんが、真面目な学生が理解できない授業は問題があると考えています。きちんと受講している学生が分かるような授業を行うよう努めます。
- ・前回調査と比較してほとんど変化がなく授業の評価は概ね中程度から良好で、特に改善を必要とする個別の講義などはありませんでした。

### 【学生への要望】

- ・勉強時間の不足は明らかに成績不良の原因と成っています。
- ・地道に勉強することに努めて下さい。

## 柔道整復学科

### 【学科の対応】

- ・理解不足の学生には補講や授業終了後の質問等が積極的に行えるよう改善していきます。
- ・教員間で学生の情報を共有し、授業の工夫に取り組み受講環境に役立てます。
- ・予習・復習を学生に促し学生の喚起を考えた授業を進めます。
- ・教員相互の授業評価を学科内で検討します。
- ・国家試験情報を適宜学生に伝え意欲をかきたてる工夫をします。
- ・熱意が感じられる授業を展開し授業の理解を深める努力をします。

### 【学生への要望】

- ・授業中は私語等他人に迷惑をかけることはやめましょう。
- ・シラバスをよく読むようにして、シラバスとかけ離れた授業があった場合には助言教員に改善を図るように要請してください。
- ・予習・復習を行い理解度の低い授業をそのままにしないで下さい。
- ・課題などの提出期限を厳守することは基本です。
- ・授業への出席が大切であることを認識し、医療専門職になるという意識を持ち、授業中は私語や居眠りそして他人に迷惑をかけないことを守り主体的に学習する態度を身につけて下さい。

## 東京理学療法学科

### 【学科の対応】

①13の項目のうち、点数が高いほどよい評価を示す8項目において平均点数の4点台が3項目（1, 3, 5）、3点台が5項目（2, 8-10, 13）であり、「どちらとも言えない」に相当する3.0点よりも低い項目はありませんでした。また、「各回の授業量」や「授業のレベル」については、「適切・ちょうどよい」と評価した学生が5割強で最も多く、「やや多い・やや高い」を含めるとそれぞれ9割前後となっています。前期に引き続き、後期科目でも授業実施上の「プレゼンテーション技術」や「運営方法」に関して大きな問題はないと考えます。今後も各項目を指標としてよりよい授業の実施に努めます。

②上記「プレゼンテーション技術」・「授業の運営方法」以外の「受講態度の評価」と「受講結果の評価」の各項目における最頻値をもとにして、本学科の学生の平均的評価をみると以下の通りとなります。「授業内容は《少し》理解した程度であり、授業内容に触発されて、参考書を読むなどの学習意欲をかきたてられたかについては《どちらとも言えず》、予習・復習など、授業時間以外での学習を《少しした》程度であるが、総合的に見て、この授業には《ほぼ満足》している。」

この結果から、学生の「受講態度」と「受講結果」の評価に改善すべき問題点が浮かび上がってきます。「授業時間以外の学習」を科目毎の「得点」グラフをみると、0点以上のプラス得点が3年次では全4科目でしたが、1年次では8科目中2科目、2年次では10科目中1科目のみでした。科目全体としても「授業時間以外の学習」を「よくした」または「ある程度した」という学生が4分の1弱にとどまっているという現状があり、前期と同様に1・2年次科目での授業時間外学習の少なさが目立ちます。自学自習を促す適切な課題や小テストの効果的な実施、補講や授業外での実技練習、小グループや個別での学習支援など、なるべく学生達の学習意欲と学習機会を増やすように努めます。

③前期と同様に極度に低い評価を受けた項目がある科目担当教員（常勤・非常勤講師）に対しては、改善に向けて

のプランを立てて実施するように促します。数年間観察し、改善が見られない場合には、学科教員による授業参観や学生からの声に耳を傾けるなどで、評点の低い項目に関する問題点を探し、科目担当教員と共同して問題解決を目指します。

#### 【学生への要望】

- ①「各回の授業量」や「授業のレベル」が「多い」・「高すぎる」と評価した学生が1割前後います。その「理解不足の原因」の項目では、約4割の学生が「勉強の仕方がわからない」、「専門用語などが難しい」、「授業のポイント不明」を、3割強が「自分の勉強不足」を挙げています。一方、「授業項目の細目との一致度」では、「読まなかった」学生が2割もいて、授業に臨む準備不足が理解不足の一因である可能性があります。理解が難しいと感じる苦手科目の場合には、シラバスで内容を確認し、予習を十分にすることが大切です。また、授業中やその前後、オフィスアワーを含めて随時学生からの質問に対応します。疑問点はできれば授業時間内に、できなければ空き時間に科目担当教員や学科教員に質問し、必ず解決して下さい。
- ②授業以外の学習を「ほとんど」または「全く」しない学生が4割弱います。「少しした」（即ち、少ししかしていない）学生を加えると4分の3ですから、前期に引き続き、依然として毎日の授業外学習が極めて不足している学生が多いのが現状です。履修している必修科目の学習内容は、国家試験に直結するのみならず、将来の理学療法士の仕事の基礎となるものです。期末試験直前になって詰め込み式に復習するやり方を改め、授業内容の振り返り、疑問点を調べてまとめるなど、毎日、大学や通学時、自宅において十分に復習する習慣を身に付けるようにして下さい。

### 東京柔道整復学科

#### 【学科の対応】

- ・講義の細目との一致度が前回よりも若干低下しているため、教員自身が注意するようにします。
- ・出席カードを友達に頼む等が目立つので、授業に自ら参加するよう今のうちから注意・指導を徹底します。
- ・高校で学習習慣を身につけて来っていない学生が多く、授業中の内容をノートに書き留める習慣を持っていないので、授業の受け方から説明することとします。
- ・「授業外の学習評価」の結果が依然として改善されないため、課題の予習・復習をさせ、担当教員が復習に重点をおくよう授業中に反復喚起します。
- ・代返などは医療人としての倫理に欠けることなので、甘い処罰はしないことにします。
- ・理解不足の原因をアドバンスセミナーなどの中で低学年のうちに解決していきます。
- ・授業以外の学習について明確にやるべきことを（ポイントを絞って具体的に）指示します。
- ・社会人基礎力の強化、医療人としての身だしなみ、禁煙を徹底します。

#### 【学生への要望】

- ・自ら学習する能力が身につけていない学生が多いので、課題等で勉強する習慣を身につけて下さい。
- ・助言制度を利用してもう少し積極的に助言担当の先生に相談して下さい。
- ・読書する習慣を身につけて下さい（図書館の積極的利用）。
- ・1.2年から国試を目標にした学習準備を意識してください。
- ・ある程度のバイトは仕方がないが、夜中まで続き次の日の授業に支障が出るようなバイトは避けて下さい。
- ・仲間を作って一緒に勉強する癖をつけてください。空き教室や図書館が有効利用できます。
- ・その日の授業の復習はその日のうちに必ず行なう習慣を身につけ、予習を行う週間をつくって下さい。

### 看護学科

#### 【学科の対応】

- ・自己学習のための場所の確保や書籍の充実を図ります。
- ・常に専門職という自覚を持てるように、教授方法の工夫が必要と考えておりFDなどでも検討します。
- ・授業方法の工夫、授業の喚起力について、約半数は「工夫されている」「喚起力がある」と回答しているが、「どちらともいえない」も4割弱あるので、引き続き学生の興味・関心を引くような教材の工夫や教授能力の向上を図ります。
- ・学習成果の蓄積が実感できるような工夫をします。

#### 【学生への要望】

- ・専門職という自覚を持ち、主体的に考え、予習・復習をはじめとして学習する習慣を身につけるようにして下さい（授業以外の自己学習率が昨年度より下がっています）。
- ・初年度に大学での学習の仕方を身につけるようにすることが大切です。
- ・授業に集中できる環境作りは教員だけでなく学生の責務でもあります。授業中のお喋りは慎みましょう。

## ●こども学部

### こども学科

#### 【学科の対応】

- ・学生の現状に合わせて、教員の学生観、指導観・方法を検討し、教育の機会均等に留意します。
- ・必要に応じて家庭訪問するなどして個別に指導します。

#### 【学生への要望】

- ・実習等で学んだことを深めるような学習姿勢を持って下さい。
- ・受講態度を改め、授業を受ける者として基本的な姿勢をつくって下さい。

### 児童教育学科

#### 【学科の対応】

- ・power point 中心の授業から、丁寧な板書中心の授業に切り替えて、学生がノートをとる学生を増やしています。また、ショートテストも効果的です。
- ・手間はかかりますが、提示するスライド資料から、重要な部分を削除した資料を作成・配布し、書き取らせるように工夫しています。さらに配布資料を試験持込みにすることで、スライドの写真を撮ることを抑制できます。また、事例などはスライドで提示せず、口頭のみで伝え、メモを取る学生が増えるようにしています。授業準備にかけた時間、労力だけの反応はあるので、このような努力を続けていきます。

#### 【学生への要望】

- ・受講者の基本として、少なくとも教科書とノートは持ってくるようにして下さい。
- ・予習・復習の習慣化にこころがけて下さい。受け身でなく主体性を持って学ぶことを望みます。

## ●教職センター

#### 【センターの対応】

特に、中高の教職課程については、安易に課題を課すことは加重的負担を強いることになりかねないと考えています。これまでのように、個別の学習要求や興味関心に合わせたかたちで、授業内で関連書籍を紹介し、興味のある内容について掘り下げられるようなアドバイスを継続していきます。

#### 【学生への要望】

- ・アンケート実施の際、学生自身も授業への取り組みについて振り返り、自身の学び方について考える機会としてほしい。
- ・千住・上野原ともに「専門用語などが難しい」「勉強の仕方がわからない」という回答が多く見受けられます。分からなかったことや追加説明を要する内容などについては、授業中・授業後に担当教員に質問をしたり、授業終了時に提出するリアクションペーパーなどに書いて、億劫がらずに疑問点等を教員に尋ねて下さい。

今年度も「授業改善アンケート」を実施しています。ご協力をお願いします。